

九州大学名誉教授、福岡建設専門学校校長の松下博通先生におかれましては、平成24年1月21日肺癌のためお亡くなりになりました。先生の永年のご厚誼に感謝いたしますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

松下先生は昭和42年3月九州大学工学部土木工学科を卒業され、昭和47年3月九州大学大学院工学研究科博士課程を単位修得後退学、同年4月より九州大学で研究・教育に従事されました。その後、昭和62年4月から平成7年10月までの約8年間九州共立大学に在籍され、平成7年11月九州大学工学部教授に就任、平成20年3月九州大学を定年退官されました。退官された後は、お亡くなりになるまで福岡建設専門学校の校長をお務めになりました。

昭和44年3月修士課程修了時は建設省に内定していたのですが、水野高明教授が九州大学を離れられる時期と一致したこと、さらに当時研究室の教官が急減していたことから建設省を断念し博士課程への進学を決意されたそうです。

先生の卒業論文は「プレテンションPCはりのボンド疲労に関する研究（昭和42年3月）」であり、博士論文は「繰返し応力を受けるコンクリートの疲労強度および疲労破壊機構に関する研究（昭和55年6月）」です。学生時代は一貫してコンクリートの疲労に関する研究を進められています。先生の当時のご研究に関して一つ面白い話が残されています。

疲労試験から得られる疲労寿命の測定結果が大きくばらつき、なかば投げやりの状態になっていたところ、のちに、湿潤状態のコンクリートと乾燥状態のコンクリートをすべて同一母集団としてデータを解析していたために疲労寿命のばらつきが極端に大きくなっていくことに気が付かれたそうです。今では、湿潤状態の疲労寿命は気乾状態の疲労寿命より小さくなることは当然の知識ですが、当時はデータの信頼性を疑い、実験を繰返し実施されたようです。研究における偶然の大切さを伝える貴重な逸話となっています。ちなみに、この一連の研究は昭和54年度の土木学会論文奨励賞の受賞へとつながっています。

先生とお話をしてよく感じたことは、お父様とお母様に対する心からの想いです。先生のお父様松下久道様は九州大学理学部の地質学教室の教授でした。博通先生の代表的な研究として、コンクリートの温泉腐食に関する研究やわが国初の逆吊橋「速日の峰橋（宮崎県）」の設計施工に関する研究などをあげることができます。前者は、硫酸塩地盤におけるコンクリートの劣化に関する研究として長く継続されたものであり、海成層地盤や産炭地におけるボタ造成地地盤の建物基礎コンクリートの劣化問題へとつながっています。後者は、宮崎層群とよばれる乱された地層中にケーブルを定着するための、定着方向と定着長さなど

を地質学的見地から検討したものです。いずれもコンクリート工学の知識に加えて地質学の詳しい知識を必要とするものであり、先生のお父様のご専門と密接につながっています。後日、先生に「先生のご研究の基礎はお父様の研究ですよ」と不躰な質問をしたことがあります。先生は「そのとおりだよ」とお答えになり、お父様の影響が大きかったことを話して下さりました。先生のコンクリート工学を支えていたものは間違いなくお父様に対する尊敬であったと思います。

先生は酒豪だと思われる方が多いかもしれませんが、決してそうではありません。先生はよく中洲に繰り出して行かれましたが、お酒を飲むことが目的ではなくカラオケを楽しまれることが目的であったと思います。何度かお供をしましたが、1曲は歌わないと帰してはいただけませんでした。私にかぎらず誰の下手な歌に対しても拍手を惜しまれることはなかったと思います。

先生の18番は「ヨイトマケの唄」です。この歌は一人前のエンジニアになった少年が亡き母への感謝の気持ちを歌った唄です。具体的に先生がお母様のことをどのようにこの唄に結び付けておられたか存じ上げませんが、先生がこの唄を歌われるたびに先生のお母様への想いを感じたものです。先生のお母様がひざの関節の手術をされたことを話していただいたことがあります。手術以降満足に動くことができなくなってしまったことを残念そうに回想され、「身体に異物を入れてはいけないよ」と話されたことが思い出されます。

平成18年4月に私（濱田）が九大に戻りましたが、その頃は先生とゆっくりお話ができる状態ではありませんでした。こんなに早く永遠のお別れになるとは思いませんでしたので、先生から落ち着いてお話をうかがう機会が十分になかったことが今は本当に残念です。先生はお亡くなりになるまでコンクリート工学の現役でありました。先生が目指したコンクリート工学、先生がお考えになった九州大学コンクリート研究室の姿、を今は自問しています。

最後に、先生のご退官の記念に先生が一番大切にされていたご家族と撮られた写真を、奥様のお許しをいただき皆様にご紹介させていただきます。

松下先生、本当にありがとうございました。どうか安らかに眠り下さい。



* Hidenori HAMADA : 九州大学大学院 工学研究院 社会基盤部門 教授